

## 「就学時検診時の校長講話（要約）」

令和3年10月5日（火）

皆さん、こんにちは。本校校長の山崎祐一と申します。37年間、中学校に勤務して今年の4月から初めて小学校勤務になりました。今、こうして皆さんとお会いできる事を楽しみにしていました。ようこそ西原小学校へお越し下さいました。

これからお子さんたちが検診をしている間の30分程度、私から皆さんに「子育て」についてお話させていただきたいと思います。耳障りな話がありましたら、ぜひ取捨選択をして聞いて下さい。まずはお子さんをここまで育ててこられた事に敬意を表したいと思います。がんばりましたね。夜中に突然熱が出て病院に駆け込んだ事もあったかもしれません。仕事と子育ての両立に悩まれたかもしれません。また子育てを巡ってご夫婦や家族同士の意見の食い違いもあったかもしれません。そんな経験を経てここまでお子さんを立派に育てられた事は本当に素晴らしいと思います。しかし子育てって本当に難しいですね。私にも2人の息子がいますが、家内からは学校の先生と結婚したんだからもう少し子育てや勉強が楽になると当てにしていたら全く違っててがっかりした・・・とよく言われました。他人のお子さんを面倒見ると我が子の子育てとは全く違いました。子育てで悩む事は当たり前なんです。よく子育ては「リハーサルのない舞台」と言われます。毎日がぶっつけ本番で心が不安や戸惑いばかりの日々もありました。そんな私ですが、長年の教職生活で数千人の子どもや保護者やご家庭を見てきました。そして多くの教え子たちは同窓会等で幼少期の家庭の様子も語ってくれました。自分の子育てと併せて気づいた事や学んだ事的一端を3つの柱に分けて本日お伝えしたいと思います。

1つ目の柱「どうして子育てで悩むのか？」を考えてみたいと思います。「山崎先生、子どもが親の言う事を聞かないで困っています。何かアドバイスをして下さい」「子どもが問題行動を起こしています。どうしたらよいですか」・・・こんな相談をよく受けました。先ほど子育てはリハーサルのない舞台と言った様に予習や練習ができない子育てに悩みや戸惑いがあるのが当然です。また兄弟でも性格や考え方が違って同じ様に子育てができません。それでも悩みの度合いや感じ方にご家庭によって大きな差が生まれています。なぜでしょうか？

悩みを深める理由の1つは子育てをパートナーやご家族のサポートがなく一人で行っている点です。温かな会話が少ないご夫婦やご家庭は悩みが次々に起

こります。会話もどうしても相手を責め立てる会話が多くなります。時にご夫婦で口を利かなかつたり、相手が何を考えているかわからないという家庭も悩みを深めていました。「子育てはあなたに任せている」とパートナーに言われてしまったら悩みや戸惑いが生まれて当然です。一人で子育てをするから悩むのです。皆さんのお宅は話を聞いてくれるパートナーやご家族がいますか？

2つ目は「知識や情報に流されやすい」事です。知識や情報に一喜一憂すると子育ての悩みは深くなります。ママ友から言われた一言に心が乱れる事はありませんか。こうした方が良いとかこれは良くないと言われれば現実の子育ての仕方や子どもの様子とのギャップに苦しみます。ある本に「息子全員を超有名大学に進学させた」という本が話題になりましたね。皆さんはもうお分かりかもしれませんが、同じ事や考え方を真似ても同じようにはなりません。家庭環境や子どもの個性が違うからです。また小学校に入学する前までにやっておくべき事という情報があると急に我が子は大丈夫かという思いが湧いてきます。菊の運命を持つ人がバラの手入れを求めて真似しても効果はないのです。自分が苦しむだけです。

3つ目はちょっと言いにくいのですが、「親御さんやご家族の心が健康でない」場合に子育てに悩みが生まれます。要するに大人の言動が子どもの手本になっているかどうかです。例えば腰の曲がったお年寄りを見た時、「人生の荒波を渡ってきた方だな」と思う人は健康です。「邪魔だ」「どけ」「速く歩け」・・・こんな気持ちは心が不健康です。そんな思いを家庭の中でお子さんに聴かせていると子どもは自然と親の言う事を聞かなくなります。自分の事をさておいて子どもだけは自分の思い通りになる様な事はありません。

次に2つ目の柱として「これからの子育てをどうしたら良いか」をお話します。ここまでなぜ子育てに悩むのかをお話してきて結論をほぼお伝えしました。結論は子どもにどんな子育てをするかではなく、私たち大人（親や家族）の心の感じ方や言動をいかに道理に叶ったものにするかです。道理に叶ったものとは人に迷惑をかけない当たり前の言動をするという事です。人から何かをしてもらえば感謝の気持ちを伝え、自分がされて嫌な事は人にしない事です。自分の姿や言葉で子どもに見本となる言動を見せて教える事です。そのためには夫婦や家族が仲良くしなければなりません。夫婦や家族同士で温かな本当の会話を繰り返す事です。指示や連絡や叱責や命令は本当の会話ではないのです。人を見下げたり、批判したり、争ったりする親の姿を見せてはいけません。そんな親の姿を見てしまうと子どもは自然と人を見下げたり、批判したり、争ったり

するようになります。そこに新たな悩みが生まれてしまうのです。そして子どもに話す言葉に温かな心を加える事です。心が籠った言葉には子どもの心を癒す効果があります。会話は家庭から生まれます。15歳になるまでは和のある本当の会話とはどのようなものかを子どもに見せる事です。15歳を過ぎたら互いに考え方を共有したり示唆したりする事です。その結果、家庭が子どもの傷ついた心を癒すシェルターの役割ができ、子どもは自然と親への信頼を増していきます。「子育ては親育て」とも言います。私たちは神様でも聖人君子でもありません。間違ったり後悔したりする事は日々あります。しかしそんな状況でも少しでも親として人として成長した姿を子どもに見せよう、間違った時は素直にごめんなさいと言える親になろうとする事が一番大切な事なのかもしれないですね。頑張りましょうね、皆さん！

最後に3つ目の柱として「広い視野からみた今の子育て」についてお話しします。今まで数千人の教え子たちと出会いました。教え子たちからたくさん学ぶ事がありました。幼児の頃は引っ込み思案で人の後ろに隠れてばかりいた子だったという生徒会長がいました。小学校時代はいじめられっ子だったという中学校の番長がいました。そんな番長が社長となり偏差値の高い大学生を社員として使っています。学歴や栄誉があればこしたことはありませんが、子どもの将来を全て保障するものではない事を学びました。こんな現実を見続けていると小中学校での学校教育とは何が正しくて何が正しくないのかが分からなくなった時もありました。ただし社会で信頼され活躍している子どもの家庭には共通する事がありました。それはどのご家庭も常識ある言動をする誠実な保護者であり、人の役に立つ事をとて熱心に行っていた保護者だった事です。逆を言えば、問題を起こしてしまうお子さんのご家庭には他人の事には関心も寄せず、夫婦間に何かしら抱えている大きな問題があったという事です。

あと半年で皆さまのお子さんは小学校に入学します。入学までにあれもしておこう、これもしておこうという事も大切ですが、私は温かな会話で溢れ、笑顔がいっぱいあるご家庭をご夫婦、ご家族で創ってほしいと思います。そして本当の会話とは何かという事をご夫婦やご家族全員でお子さんに伝えてほしいと思います。他人のお子さんをご自分のお子さんを比較することなく、花咲く時はみんな一人ひとり違うと思っ自信を持って子育てをして下さいね。子育てができる今が皆さんの人生にとって宝の様な時代なのです。私みたいに子育てを終えてしまうと、今は懐かしさや寂しさしか残っていません。もう一度やればもっとうまくいくのにと思っても後の祭りですね。素敵な家庭づくりそして素敵な子育てを頑張ってください。

